

令和8年度 鈴鹿市立鈴西小学校学校経営の改革方針

1 めざす学校像（基本理念）

【鈴峰中学校区統一キャッチコピー】

「地域とともにたくましくチャレンジする鈴峰の子」

【学校教育目標】

「仲間と関わり合いながら、確かな学力と人権感覚を身につけ、たくましく生きる子の育成」

【めざす学校像】

- こどもたち自身及び保護者、地域、教職員が児童の成長を感じられる学校
- ・児童一人ひとりの小さな変容や伸びを丁寧に見つめ、その喜びを本人・家庭・地域・学校で共有できる学校をめざす。
 - ・心理的安定性が高く、児童も教職員も失敗を恐れず挑戦できる土壌を育む。
 - ・地域とともにある学校として、開かれた学校運営と迅速な情報共有を徹底し、強い信頼関係を構築する。

2 めざすこども像

（1）確かな学力を身につけた子

「自分ではできる」と自信をもち、主体的に自ら課題を見つけ、周囲と関わりながら粘り強く課題を解決していく子

（2）人権感覚を身につける子

自分と仲間を大切に思い、周囲と認め合いながら互いの成長のために行動できる子

（3）たくましく、豊かな感性を身につけた子

自らの心身の健康のため、よい生活習慣と運動習慣、豊かな感性を身につけた子

3 現状と課題 ※%の数字は肯定的回答「はい」「どちらかといえばはい」を示す。

（1）学力保障・学力向上について

【成果】・「授業で、自分で考えるのが楽しい（児童アンケート 86.6%）」といった主体性が高く、「授業はわかる（児童アンケート 96.6%）」という実感もある。

【課題】・「お子さんは学校や家庭で本を読んでいる。（保護者アンケート 54.8%）」や「お子さんは、家庭学習をする習慣がついてきた（65.9%）」が低い。保護者の協力も得ながら、自己の家庭学習の状況を振り返り、目標を決

めて、自律的に取り組む家庭学習力の強化が望まれる。

(2) 不登校対策について

【成果】・「気になる児童共有シート」を活用し、職員が一体となった早期発見・早期対応の体制が整っている。

【課題】・「学校に行くのが楽しい」と感じる児童の割合（児童アンケート 87.9%）に改善の余地がある。安心できる学級づくりや個別の背景に応じた重層的な支援、児童が「明日も行きたい」と思える魅力的な授業づくりが求められる。

(3) 人権教育の充実について

【成果】・「私は、得意なことやよいところがある。」（自己肯定感）は、95.3%に上昇した。「クラスの仲間は、わたしのよいところやがんばりを認めてくれている。」も93.3%が肯定的回答である。

【課題】・自己肯定感が高まっているものの、具体的にどの点が改善しているのかを自覚できていない。本物の充実感へとつなげていくことが今後の課題である。

(4) 校区及び地域連携と協働について

【成果】・37名の学習ボランティアによる支援など、地域の教育力の活用が活発である。毎日の登下校の見守り活動も地域の方にご協力いただいている。

【課題】・鈴峰中学校区全体での「学習・生活のルール」のさらなる連携が必要である。また、家庭での教育力（読書・学習週間）を支えるための学校からの具体的な情報発信と啓発活動が不可欠である。

(5) 信頼される学校と働きやすい職場づくりについて

【成果】・定時退校（87.5%達成）等、ワークライフバランスへの職員の意識は向上している。

【課題】・年間延べ14名の時間外労働30時間超えがある。働き方改革を進め、教職員が心身のゆとりを持つことで、児童へのきめ細かな対応と不祥事防止につなげたい。

4 重点目標

現状の分析に基づき、令和8年度は以下の4本柱を重点的に推進する。

(1) 「対話を通して、主体的に粘り強く課題に向かい、解決できた喜び」を実感する授業づくり

・ICTを思考の可視化ツールとして活用し、児童が自ら問いを立て、仲間と解決する喜びを実感させる。

- ・サーチ学習（低学年・中学年・高学年別に取り組む探求学習）を充実させ、自主的に課題を見つけ、追究し、仲間と関わりながらさまざまな方法を用いて解決する喜びを味わわせる。「森のまつり」では、保護者・地域・児童を対象に学んだ成果を伝え、学びを深める。

（２）学校・家庭・地域が一体となった「学びのサイクル」の構築

- ・家庭学習、読書習慣を、中学校区共通の取組として、家庭と連携して取り組む。

（３）非認知能力の育成による、承認と安心の集団づくり

- ・「自制心」「やり抜く力」「社会性」を正しく評価し、互いのよさを認め合う活動を通じて、「自己肯定感」を高める。また、困難に立ち向かう「しなやかな心」を育む。

（４）教職員のウェルビーイングの実現と「チーム鈴西」の強化

- ・業務の精選やICTの有効活用により、働き方改革をさらに推進し、教職員が情熱を持って児童に向き合える環境を整える。

５ 本年度の具体的行動計画

（１）学力保障・学力向上

- ・授業改善：一人一台端末を文房具として日常化し、思考の可視化と共有を授業に組み込むことで、対話を活性化し、深い学びにつなげる。
- ・補充指導：朝のモジュール学習（朝読書、百マス計算、聞く活動、読解力向上ワークシート、学VIVAセットの活用等）と月1回のチャレンジタイムでの少人数指導の徹底。
- ・家庭学習習慣化の支援：「家庭学習の手引き」の有効活用、鈴峰中学校区共通の家庭学習強化週間の設定。
- ・読書活動の推進：家庭と連携した「おすすめ本」の完読をめざす。家庭読書を促す「うちどく」の推進。

（２）きめ細やかな対応と不登校対策

- ・組織的支援：スクールカウンセラーや関係機関を交えたケース会議の実施。
- ・居場所づくり：仲間から認められる学級づくりを進め、児童が「ここにいるよ。」と感じられる環境を整える。
- ・未然防止：毎日1回以上の「ポジティブな声かけ」を全児童に行う学級経営。

（３）生徒指導・交通安全指導の充実

- ・基本的生活習慣の定着：「早寝・早起き・朝ごはん運動」等に取り組み、基本的生活習慣の定着を図り、落ち着いた学校生活を過ごす。
- ・主体的な児童会活動：主体的な児童会活動を通して、気持ちのよいあいさつや相手の思いやる言葉づかいを広め、いじめのない学校づくりを呼びかける。
- ・組織的支援：SC、SSW、関係機関と連携した早期ケース会議を定例化する。
- ・積極的な生徒指導：毎学期のいじめアンケート及び教育相談の実施。軽微な事案も即時に複数で対応する。

- ・交通安全：地域・PTA と連携した登下校の見守り活動の実施。見守ってくださる地域の方と連携し、提供情報を交通安全指導に生かす。

(4) 小中一貫教育を見据えた小中連携の推進

- ・校区校長会の開催：日頃から中学校区の連絡・相談を密にするとともに、校区校長会を年間9回以上開催する。
- ・中学校区拡大学校運営協議会：年6回の学校運営協議会のうち、1回を中学校区拡大学校運営協議会とし、共通課題の洗い出しと対策を進める。
- ・鈴峰中学校区の小中一貫教育：今後の小中一貫教育を見据え、合同研修会（授業改善等）や校区担当者会、あいさつ運動、家庭学習強化週間、鈴峰中校区4小学校合同自然教室（5年生）、鈴峰中学校合唱キャラバン等の児童生徒の交流活動、さまざまな教育活動を通じて、小中連携及び小小連携を推進する。
- ・生活・学習ルールのすり合わせ：鈴峰中学校区小中学校の生活・学習ルールを共有し、すり合わせることで、一貫した指導をめざす。

(5) 働きやすい職場づくり

- ・抜本的な業務削減に向けた業務分担の見直しや適正化を行う。

〈今年度の目標〉

1 県及び市町と学校が一体となった取組

- ・設定した日（月2回）の定時に退校できた職員の割合 100%（R7 87.5%）
- ・放課後に開催して60分以内に終了した会議の割合 100%（R7 71.1%）

2 教育委員会における上限時間に基づく目標等の設定

- ・年360時間、月45時間を超える時間外教職員 0人（R7 0人）
- ・1人当たりの月平均時間外労働時間 30時間以下
※昨年度の月30時間超えののべ人数 (16人)
- ・1人当たりの年平均休暇取得の目標日数 16日以上（R7 15.5日）

(6) 服務規律に関する研修の実施

- ・不祥事防止：体罰、ハラスメント、不適切指導等の根絶に向けた、全教職員による事例検討会（コンプライアンスミーティング）の定期的な実施する。
- ・意識改革：服務規律啓発を随時行い、リスク情報の共有と同僚性を向上させる。

(7) 非認知能力の育成

- ・可視化と評価：非認知能力（自制心、やり抜く力、社会性、自己肯定感）に焦点を当てた賞賛活動を展開する。
- ・実践の場：非認知能力を育成するため、すべての教育活動にねらいを持って、計画的に取り組むことをめざす。また、ポジティブメッセージカードの活用や児童による自己評価アンケートの定期的な実施を行い、成長を実感させる。
- ・検証：非認知能力アンケートの結果を分析し、学級経営に即座にフィードバックする。